

# 地域経済動向調査報告書

平成 29 年度 第 4 四半期

<平成 30 年 1 月から 3 月まで>

平成 30 年 2 月

調布市商工会

## <要旨>

全体の D I の分析から読み取れる市内小規模事業者の第 4 四半期の状況は、第 3 四半期と比べて売上高では数量、単価ともに減少となり前第 3 四半期に続いて悪化している。仕入単価上昇の傾向は弱まりつつあるものの採算面では依然厳しい状況が続いている。

次期平成 30 年度第 1 四半期の見通しとしては、単価、客数、数量のいずれの面においても増加に転ずることで売上が改善するものと見込まれている。仕入単価の上昇にも歯止めがかかり、業種によるバラツキがあるものの若干ではあるが採算改善の傾向が見込まれている。

資金繰り、借入れの面では目立った変化はない。

経営上の問題としては事業採算面と人手不足をあげるものが多いのに加えて、「売上（取引）件数の減少」、「仕入（外注）単価の上昇」、「売上単価の低下・上昇難」も指摘されている。一方、「新規参入業者の増加」や「大企業・大規模店舗の進出による競争の激化」を指摘する回答は減少しており、昨年 9 月に開業した大型商業施設「トリエ京王調布」の影響が鎮静化しつつあるものとみられる。

なお、本報告書での D I（景気動向指数）は、調査項目ごとに有効回答数を分母として、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示している。具体的な算出方法は次のとおり。

$$D I = \frac{\text{増加} - \text{減少}}{\text{増加} + \text{不変} + \text{減少}} \times 100$$

## 1. 調査の概要

本調査は、当商工会会員である小規模事業者の業種構成比率を基に抽出した市内の製造業4社、建設業6社、小売業10社、飲食業14社、サービス業16社の小規模事業者計50社に対し、経営指導員および巡回相談員を通じ別紙「中小企業景況調査票」への記入によって実施した地域経済の動向を調査したものである。本報告書は、第4四半期（平成30年1月から3月まで）の調査結果をまとめたものである。

## 2. 今四半期の状況

今四半期（平成30年1月から3月まで）の状況を前年同四半期（平成29年1月から3月）と前四半期（平成29年10月から12月まで）との比較で調査した。また、一部の項目は今四半期の水準についても調査した。

### 2.1. 売上高の動向

#### 2.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.1~3月比	△ 12.0	0	△ 16.7	0	△ 28.6	△ 6.3
H29.10~12月比	△ 36.0	0	△ 16.7	△ 50.0	△ 35.7	△ 43.8

H29.1~3月比では業種ごとにバラツキがみられるなか、いずれの業種においても悪化となっている。H29.10~12月比においても業種ごとのバラツキがみられるが、いずれも悪化を示している。特に、小売業、サービス業では厳しい傾向がみられる。

#### 2.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H29.1~3月比	0	△ 14.0	△ 17.0
H29.10~12月比	△ 6.1	△ 30.0	△ 30.4

売上を構成する要因別にその動向をみると、H29.1~3月比では客数、数量の面で悪化を示すものとなった。H29.10~12月比では、客数、数量の面の悪化がさらに厳しいものとなっている。

## 2.2. 仕入動向<sup>1</sup>

	仕入単価
H29. 1～3 月比	△ 40.0
H29. 10～12 月比	△ 30.0

仕入単価の上昇（採算面では悪影響）を示す回答が依然として多いが、H29. 1～3 月比より H29. 10～12 月比の方が改善を示すものとなっており、仕入単価の上昇が弱まる傾向が読み取れる。

## 2.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3 月比	△ 16.0	0	△ 50.0	△ 20.0	△ 28.5	6.3
H29. 10～12 月比	△ 24.0	0	△ 33.3	△ 40.0	△ 14.3	△ 25.0
H30. 1～3 月の水準 <sup>2</sup>	6.0	25.0	16.7	△ 10.0	△ 14.3	25.0

H29. 1～3 月比で見ると、建設業、小売業、飲食業で悪化の傾向が目立ち、全体を通じて悪化している。H29. 10～12 月比では、製造業以外の業種ではさらに厳しい傾向もみられる。H30. 1～3 月の採算の水準としては、業種により「赤字」と「黒字」の傾向が分かれバラツキがみられる。

## 2.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3 月比	△ 12.0	△ 25.0	△ 16.7	△ 20.0	△ 21.4	6.3
H29. 10～12 月比	△ 14.0	0	16.7	△ 20.0	△ 21.4	△ 18.8
H30. 1～3 月の水準 <sup>3</sup>	△ 22.0	0	0	△ 40.0	△ 21.4	△ 25.0

H29. 1～3 月比で見ると、サービス業以外の業種で悪化を示している。H29. 10～12 月比では、各業種で傾向が分かれるが、全体的には悪化を示している。H30. 1～3 月の業況の水準については、好転を示す業種はなく、小売業、飲食業、サービス業で「悪い」とする回答が目立ち、地域経済全体が厳しい業況にあることが読み取れる。

1 採算への影響の面から正負を表記した（「3. 次四半期の見通し」においても同じ）。

2 「採算（営業利益）」における「H30. 1～3 月の水準」は、「黒字」と答えた事業者の割合から「赤字」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

3 「業況（自社）」における「H30. 1～3 月の水準」は、「良い」と答えた事業者の割合から「悪い」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。過去との比較を問うものではない。

H30. 1～3月の状況の傾向を総じて分析すれば、売上高は、H29. 1～3月比で数量面の伸び悩みが見受けられ、H29. 10～12月との対比では単価面での低迷が見られ業況は依然厳しい状況にあることが推察される。仕入単価上昇の傾向は弱まりつつあるものの採算面では依然厳しい状況が続いている。

## 2.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H29. 1～3月比	△ 4.0	
H29. 10～12月比	△ 2.0	△ 2.2

資金繰り、借入難度については、いずれも目立った変化はみられない。

## 2.6. 人材

### 2.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3月比	△ 4.3	0	△ 16.7	△ 11.1	△ 15.4	13.3
H29. 10～12月比	△ 2.1	0	0	△ 11.1	0	0
H30. 1～3月の水準 <sup>4</sup>	△ 39.6	△ 50.0	△ 83.3	△ 33.3	△ 14.3	△ 46.7

全体でみる限りは目立った変化はないが、H29. 1～3月比では悪化した傾向がみられるもののH29. 10～12月比では状況が緩和しつつある。ただし、従業員の充足に関するH30. 1～3月の水準は全業種を通じて人手不足を強く示す結果となっており、問題が根強いものであることを示している。

### 2.6.2. 外部人材（請負・派遣）

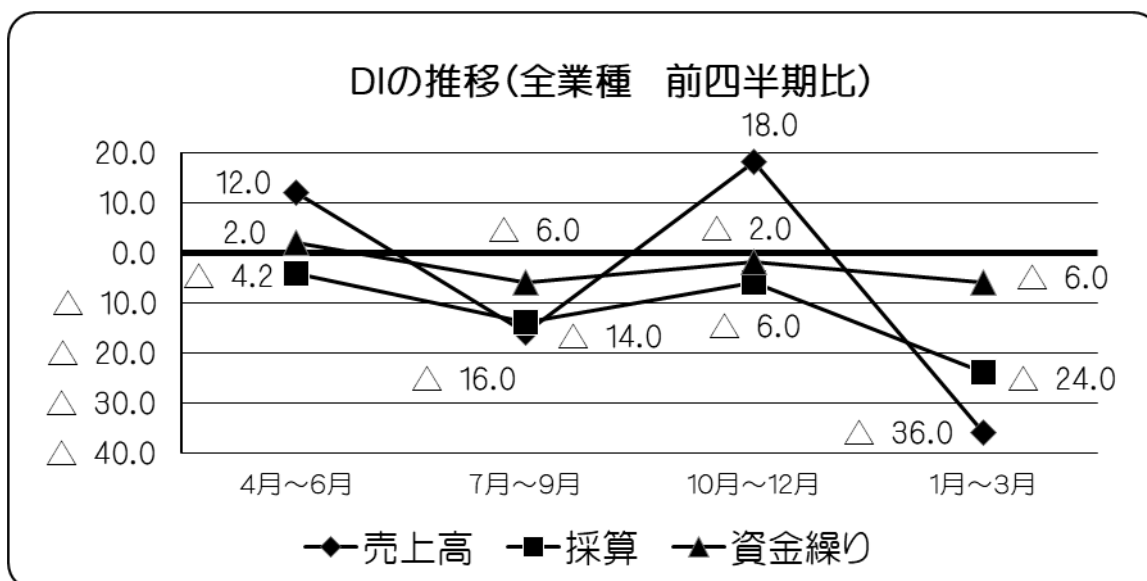
	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 1～3月比	3.0	0	△ 16.7	33.3	0	0
H29. 10～12月比	△ 3.0	0	△ 16.7	16.7	0	△ 10.0

全体としては目立った傾向にはなっていないが、小売業では改善がみられた。

4「従業員（含む 臨時・パート）」における「H30. 1～3月の水準」は、「過剰」と答えた事業者の割合から「不足」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

## 2.7. 推移

全体のD I（売上高、採算、資金繰り）の推移は次のとおりである。



## 3. 次四半期の見通し

次四半期（平成30年4月から6月まで）の見通しを前年同四半期（平成29年4月から6月まで）と今四半期（平成30年1月から3月まで）との比較で調査した。

### 3.1. 売上高の見通し

#### 3.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.4～6月比	10.0	△75.0	0	20.0	14.3	25.0
H30.1～3月比	26.0	0	16.7	60.0	14.3	25.0

全体としてはH29.4～6月比で若干の売上回復が見込まれている。また、H30.1～3月比では小売業を中心に相応の回復が見込まれていて、「悪化」を見込む業種がない。

#### 3.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H29.4～6月比	8.2	4.0	△4.3
H30.1～3月比	22.4	22.0	19.1

今後の売上増の要因として、H29.4～6月比では若干の単価増が見込まれている。H30.1～3月比では単価、客数、数量のいずれの面においても改善するものと見込まれている。

### 3.2. 仕入の見通し

	仕入単価
H29. 4～6 月比	△ 26.0
H30. 1～3 月比	△ 6.0

H29. 4～6 月比では仕入単価の上昇を見込む回答が多いものの、H30. 1～3 月比では減少しており、悪化に歯止めがかかるものと見込まれている。

### 3.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～6 月比	0	△ 50.0	△ 16.7	△ 20.0	14.3	18.8
H30. 1～3 月比	6.0	25.0	0	△ 10.0	7.1	12.5

全体的には悪化に歯止めがかかると見込んでいるが、小売業では消極的な見通しを示すなど業種によるバラツキがみられる。

### 3.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～6 月比	2	△ 25.0	0	△ 10.0	0	18.8
H30. 1～3 月比	12.0	0	0	10.0	14.3	18.8

全体的には若干の改善が見込まれており、H30. 1～3 月比では悪化を見込む業種がない。

H30. 4～6 月の見通しを総じて分析すれば、単価、客数、数量のいずれの面においても改善が進み売上が改善するものと見込まれている。仕入単価の上昇にも歯止めがかかり、業種によるバラツキがあるものの若干ではあるが採算改善の傾向が見込まれている。

### 3.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H29. 4～6 月比	4.0	
H30. 1～3 月比	6.0	0

資金繰り、借入難度については、いずれも目立った変化はみられない。

### 3.6. 人材

#### 3.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.4～6月比	2.1	0	0	△ 11.1	0	13.3
H30.1～3月比	2.1	0	16.7	△ 11.1	0	6.7

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、小売業では人手不足の傾向が続くものとみられる。

#### 3.6.2. 外部人材（請負・派遣）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.4～6月比	0	0	△ 16.7	16.7	0	0
H30.1～3月比	2.9	0	0	16.7	0	0

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、小売業では外部人材の確保が進むとの見通しが多くを占めている。

### 4. 設備投資

設備投資の動向について、今四半期（平成30年1月から3月まで）の実績と次四半期（平成30年4月から6月まで）の計画を調査した。

	実施／計画 していない	実施した / 計画している				
		建物 店舗	機械 設備 備品	車両・ 運搬具	付帯 施設	IT 機器
H30.1～3月実績	84%	-	8%	8%	-	4%
H30.4～6月計画	78%	8%	10%	6%	2%	-

設備投資についてはH30.1～3月の実績、H30.1～3月の計画とも、ほぼ8割の事業所が実施も計画もしていない。なお、「その他」としてH30.1～3月実績では「看板メンテナンス」、H30.4～6月計画では「ホームページ」との回答があった（各2%）。

## 5. 経営上の問題点

今四半期（平成 30 年 1 月から 3 月まで）に直面している経営上の問題点（重要度の高い順に 3 つ以内）を調査した。

内 容 <sup>5</sup>	1 位の問題点	1 位～3 位の問題点
売上（取引）件数の減少	24%	34%
従業員（含パート等）の確保難	12%	26%
仕入（外注）単価の上昇	8%	32%
設備・機器・店舗の老朽化	8%	24%
ニーズの変化への対応	6%	22%
熟練技術者の確保難	6%	22%
売上単価の低下・上昇難	6%	18%
需要の停滞	6%	16%

事業採算面の問題と人手不足に関する問題をあげる回答が上位を占める。前者では、「売上（取引）件数の減少」、「仕入（外注）単価の上昇」が上位を占めるうえ「売上単価の低下・上昇難」も指摘されている。一方、これまで指摘の多かった「新規参入業者の増加」や「大企業・大規模店舗の進出による競争の激化」はいずれも圏外となり、昨年 9 月に開業した大型商業施設「トリエ京王調布」の影響は沈静化しつつあるものとみられる。

<sup>5</sup> 「1 位」、「1 位～3 位」のそれぞれ上位 5 位までの選択肢が含まれるように抽出し、「1 位～3 位」での上位のものから順に記載した。